

被災地方言会話集

— 宮城県本吉郡南三陸町 —

＜自由会話＞

自由会話の概要

収録地点 宮城県本吉郡南三陸町

収録日時 2012（平成 24）年 7 月 7 日

収録場所 宮城県本吉郡南三陸町入谷（話者 A 宅）

話題 【震災のときのこと／昔の仕事のこと】

話者〔1〕

A	女	1939（昭和 14）年	（収録時 73 歳）	[B・C の知人]
B	女	1928（昭和 3）年	（収録時 84 歳）	[A・C の知人]
C	男	1952（昭和 27）年	（収録時 59 歳）	[A・B の知人]
D	男	1982（昭和 57）年	（収録時 30 歳）	[調査者]

話者出身地

A	南三陸町入谷（イリヤ）
B	南三陸町入谷（イリヤ）
C	南三陸町志津川（シヅガワ）

【震災のときのこと／昔の仕事のこと】

話し手

A	女	1939 (昭和 14) 年	(収録時 73 歳)	
B	女	1928 (昭和 3) 年	(収録時 84 歳)	
C	男	1952 (昭和 27) 年	(収録時 59 歳)	
D	男	1982 (昭和 57) 年	(収録時 30 歳)	[調査者]

001C : Bサン アノー、タカノカイカンカラ (B ウン) ヘリコプターデ
Bサン あの、高野会館から (B うん) ヘリコプターで

ダッシュツシタンデシヨ。
脱出したんでしょ？

002B : ウン。ンダヨ。
うん。そうだよ。

003C : デ、ソノ、アト
で、その、あと

004B : ソーステ、ショーカ°ッ チューカ°ッコサ オロサイダノネ。
そうして、×××××× 中学校に 降ろされたのね。

ヒコーチデ キテ。ホシテ、コンダ チューカ°ッコガラ ショーカ°ッコサ
飛行機で 来て。そして、今度 中学校から 小学校へ

シケデ [2] ツェデコライダノ。ソッテ ソゴノ ショーカ°ッコサ
手を引いて 連れて来られたの。そして その 小学校で

トマッタノ。
泊まったの。

005C : シズカ°ワショーカ°ッコサ。
志津川小学校？

南三陸町 自由会話

006B : ウン。(C ん一) シズカ°ワ ショーカ°ツコー。
うん。(C ん一) 志津川 小学校。

007C : イリヤワ マダ カエッテナインダ。イツ コッチニ カエッテキタノ。
入谷は まだ 帰ってないんだ。いつ こっちに 帰ってきたの？

008B : ツキ°ノシノネ、ユーカ°ダナー。フツカミノ。
次の日のね、夕方なあ。二日目の。

009C : ジュー、ニニチ。
十、二日？

010B : ゴコ°ニ ムゲタ ムゲサ キサイダモンネ。
午後に 迎えた 迎えに 来られたもんね。

011C : ジューイチニジ (B ウジガラ) ワ、タカ
十一日 (B うちから) は ××

012A : ジューサンダベオン。
十三だろうよ。

013C : ジューサンニチ。(B ジューサンニズガナー。)
十三日？ (B 十三日かなあ。)

014A : ウン。フツカコ°。(B フツカダラナ)
うん。二日後。(B 二日ならな)

015C : フツ、フツカメニネ。(B ウン) カエッテキタノ、ウチニ。(B ハイ)
××、二日目にね。(B うん) 帰ってきたの、うちに。(B はい)

ヨガッタネ。
良かったね。

016B : ナーヌ一、ダレモ ショーカ°ツコーニ イネンダドヤ。ミナ
何、誰も 小学校に いないんだよ。みんな

南三陸町 自由会話

ムゲサ デテキテ。(A ン一) オラバリ イデ。オレド
迎えに 出てきて。(A うん) 私だけ いて。私と

X1サンバリ。(A ン一) ミエネノ。 サムイモノ サム一、
X1さんだけ。(A うん) [迎えが]見えないの。寒いもの 寒い、

カーテン ハンズシテ {笑} カーテンサ クルマッテッサ。サンミンダモノ。
カーテン 外して {笑} カーテンに くるまってさ。寒いんだもの。

017C : サムインダ。サムインダネ一。(B ウ一ン) アシワ ツメタイシ。
寒いんだ。寒いんだねえ。(B う一ん) 足は 冷たいし。

018B : アスワ ツメタイシ。ン一。
足は 冷たいし。う一ん。

019A : ナンジョニ ミンナ マジサ イク°ド モッテ リッパナノ キテーナ
なぜか みんな 町に 行くと 思って 立派なの 着てな

ウスキ°シテ イッタベガラサ
薄着して 行っただろうからさ

020B : ホーステネア カイカンカ° ホドッカラッテネ (A ウン)
そうしてね 会館が 温まるからってね (A うん)

アッタカイガラッテ、ウスキ°シテ ゴザッタモンダ。
暖かいからって、 薄着して いらっしやったもんだ。

(C ウン) (A ウン) ホンダッテ オラエノ (C ゴザッタガ) {笑} [3]
(C うん) (A うん) だって うちの (C ゴザッタか) {笑}

オガサマ、 ナーヌ (C ン一) オバーチャン ウスキ°デ インダオ
お母さん[が]、なーに (C ン一) おばあちゃん 薄着で いいんだよ

ソッテサー アー ウスキ° シテッテッチャ [4] ホドット モッテ、
と言っさ ああ 薄着 していつてるでしよ 温まろうと 思って、

南三陸町 自由会話

サンミノ サミノ。ホナノ ズスンデ ンノー シャンデリア
寒い の 寒い の。そんな の 地震で あの シャンデリア

ザク°ザク°ザク°ザク°ザク°ド。(C ンー) イッペ ユレデッサ、
ザグザグザグザグザグと。(C うん) いっぱい 揺れてさ、

アイズァ オツテキテ、オラ ミンナ
あれが 落ちてきて、私 みんな

021C : シャンデリア (B イシ) デシヨ。
シャンデリア (B ××) でしょ？

022B : ンー、シャンデリア。
うん、シャンデリア。

023C : ネ。
ね。

024B : コイズァ オツテキテ オラ ミンナ スヌドツテ イッタノ。
これが 落ちてきて 私 みんな 死ぬぞって 言ったの。

(C アラー) ナンナモネーヤッタド ヨグ ジンミシテ
(C あら) 何もなかったよ よく 吟味して[=念を入れて]

コヒェダモンダナー。アスコ イッペニ ヘツテランダ、ンデ、 シト。
作ったもんだなあ。 あそこ たくさん 入ってるんだ、それで、人。

コンダ ミンナ ウッショサ モン ミンナ ウッショサ モンドレット。
今度 みんな 後ろに × みんな 後ろに 戻れって。

(A ンー) ホンドギ ホレ、Y1ノ [5] ロージンクラブノ
(A うん) その時 ほら、Y1の 老人クラブの

カイチョサンカ°ネー、クルマ オイデッタガラ、スタサ、オイダガラ、カイカ
会長さんがね、 車 置いてたから、 下に、 置いたから、×××

南三陸町 自由会話

025C : Y1ッテ X2。

Y1って X2?

026A : ウン、X2。 (B X2)

うん、X2。 (B X2)

027C : アー。

ああ。

028A : X2、カイチョーサンダ。コゴノ。

X2、会長さんだ。 ここの。

029C : アー ソーナンダ。 (A ウン) Y2ネ。 [6] (A ウン)

ああ そうなんだ。 (A うん) Y2ね。 (A うん)

030B : アノシトニ ノシエラエデ イッタノサ。イガネーバ イガッタノサ。

あの人に 乗せられて 行ったのさ。行かなければ 良かったのさ。

ヤー、 ヨッタヨッタ.....。 {笑} アー、ムリ スンナーッテ。

いやあ、.....。 {笑} あー、無理 するなって。

031C : {笑} マサガ コーナッドモ オモワナイモノ。

{笑} まさか こうなるとも 思わないもの。

032A : ウン。

うん。

033B : シー ヨロゴンデ スッテッタベガヤー。ホーツァケ マンド アゲデダッケ

んー 喜んで 乗っていったかなあ。そうしたら 窓 開けてたら

034C : X2モ トマッタノ。

X2も 泊まったの?

035B : X2モ オラド イッシュヨニ トマッタ。 (C アー)

X2も 私と 一緒に 泊まった。 (C ああ)

南三陸町 自由会話

イノスタズ スンダド モッタツ。フツカモ イカ° ネガラ。
家の人たち 死んだと 思ったって。二日も [家に]行かないから。

036C : ア、ダヨネー。
あ、だよねえ。

037B : Y2デ。
Y2で。

038A : ウーン。
うん。

039B : オラノ ズンツァモ ナヌ スンダド オモッテ アジラメッタット。
私の じいちゃんも なに 死んだと 思って 諦めていたって。

ホンデ タネサモ [7] コネデ。{笑}
それで 探しにも 来ないで {笑}

040C : アソゴデ ナンビャグニンモノ、イタンダモンネー。
あそこで 何百人もの、 [人が]いたんだもんねえ。

041B : イタンダモノ。
いたんだもの。

042C : ヨグ タスカッタッテバ。
よく 助かったよね。

043B : ヨグー タスカッタ。
よく 助かった。

044C : ネー。
ねえ。

045B : ウーン。オレ、ヒトアス サキサネア、アノー、アレ、ンド、
うん。私、一足 先にね、 あのー、あれ、んと、

南三陸町 自由会話

Y3ノスト [8]、オンバーサンタズァ デヒヤッタノ。ホノスタズカ°
Y3の人、 おばあさんたちが 出たの。 その人たちが

ナカ°サイダツター。デヒヤッテスマッテタガラ。(A アー) (C アー)
流されたって。 出てしまったたから。(A ああ) (C ああ)

イク° トズニ。デハネンデ イレバイガッタノサ。(C アー、アー)
行く 途中で。出ないで いればよかったのさ。(C ああ、ああ)

オラミデニ。ダメダ、アンナンドゴサツテ
私みたいに。だめだ、あんなところに[行くのは]と言って

スンブドグステ イダガ タスカッタヤ。
しぶとくして いたから 助かったよ。

046A : ンー ンー。マンズナ、スンブドイ スタズァ イガッター。ホントヌ。{笑}
うん うん。まあね、しぶとい 人たちは よかった。 本当に。{笑}

047B : ホントニヤ。オラ ワッシェライネーヤ。
本当にさ。 私 忘れられないよ。

048A : ウーン。
うん。

049B : ントニ コイズァ スヌゾンノ。(A ウン) ネデモ オギデモ。ナンーダベ。
本当に これは 死に損の。(A うん) 寝ても 起きても。なんだろう。

(C ウーン) クーモノワ ネー、ハラワ ヘル。(C ウーン) ノミモノモ
(C うん) 食べるものは ない、腹は 減る。(C うん) 飲み物も

ナンデモ カイッカンデモ ホレ、ナヌ、ジュースンナノ ネーツチャ。
なんでも 会館でも ほら、なに、ジュースなんか ないよね。

ナンボンモ。(A ウン、ウン) (C ウン) ゴホン ズッポン モツテキテサ、
何本も。(A うん、うん) (C うん) 5本 10本 持ってきてさ、

南三陸町 自由会話

アノ X3 アレ、アノヒト (A ウン) ナンツ ヒトダ。

あの X3 あれ、あの人 (A うん) なんていう 人だ？

(C ウン) エライヒトネー。

(C うん) 偉い人ねえ。

050C : X3サンカナ。

X3さんかな？

051B : ウン、X3サン。 (A ウン、X3サンツーヒトダ)

うん、X3さん。 (A うん、X3さんっていう人だ)

コイズ ミンナデ ワゲルド モタッテ イギズリシタ ナニ
これ みんなで 分けようと 思ったって ~~~~~

シトリ サップド ノンデ マーッテクルノモ コネーモンダ。 {笑}

一人[で] すっかり 飲んで 回ってくるのも 来ないもんだ。 {笑}

ハラ ヘッテッカラ。 (C ア、ソーソー)

腹 減っているから。 (C あ、そうそう)

052A : ンーー。

うーん。

053B : ナンヌモ ネガッタナー。オラホネヤ。

何にも なかったなあ。うちのほうにさ。

054C : アー、ンダヨネ、サ (A ンー) サンビャグニンガラノヒト

あー、そうだよ、× (A んー) 三百人 からの人[が]

イダンダモノネー。 (A ンー、ンー) ミンナニ マワンネー。

いたんだものねえ。 (A うん、うん) みんなに 回らない。

055A : マンネ マンネ。 (B サンビャグニン)

回らない 回らない。 (B 三百人)

056C : アリヤ ムリダ。(A ウン)
あれは 無理だ。(A うん)

057B : ムリダ ムリダ。ホドルバリモ ホドツタラ イッペ。 ナンダベ。
無理だ 無理だ。温まるだけでも 温まったら いいだろう。なんだろう。

ソイツ アノ コンクレーノ ナガサゴソ オラ ヘアッテスマッタモンダ、
それ あの コンクリの 中にこそ 私 入ってしまったもんだ、

アレ。エレベータノ チケー ヘッタドゴサ ヘッテスマッタガ。
あれ。エレベータの 機械 入ったところに 入ってしまったから。

(C ア一) ヌゲベ ヌゲベッテ。
(C ああ) 暖かいだろう 暖かいだろうって。

058C : ア一、ソーナノ。{笑} エレベータノ ナカニ ハイッタノ。
ああ、そうなの。{笑} エレベータの 中に 入ったの？

059B : ン一、アンナ チケー ニデー アンダデバ。アスグヌ。(C ウン)
ん一、あの 機械 二台 あるんだよ。あそこに。(C うん)

エレベータノ チケ ル。ソイズー スヌダグネーガラ ヘエッタラ、
エレベータの 機械 ×。それ 死にたくないから 入ったら、

ナンズニ、コンクリダエッチャ、スタモ。
どうして、コンクリじゃないか、下も。

060A : ハイ、コレ バーチャンノ、ソソデ。[9]
はい、これ ばあちゃんの、シオデ。

061C : オ、ア一。
お、ああ。

062B : タダチ タダデ イーヨー。
××× たただで いいよ。

南三陸町 自由会話

063A : ナーndaヨ。サン
なんだよ。 ××

064C : {笑} タダデ イーノ。
{笑} ただで いいの？

065B : ndaガラ ナンジョノ タダ (A ン一) サンミンダ。
だから どうにも ただ (A ん一) 寒いんだ。

コンクリノ (A ンア一) {蠅を叩く音} ナガダガラ。(A ン一)
コンクリートの (A うん) {蠅を叩く音} 中だから。(A うん)

(C アッチャ一) [10] イヤー、 イヤーノ ヨゲー スヌ スナネガッター。
(C あっちゃあ) いやあ、 いやあの よく ×× 死ななかつた。

オラモナー。ンデ マンダ イギノゴツテダ。
私もなあ。 それで まだ 生き残ってた。

066C : ダイジョブ。
大丈夫。

067B : ダイジョブダガ。(C ウン)
大丈夫か。(C うん)

068A : ンダ。バーチャン、マダ ワゲーオン。(B ン一) (C ウン) ダイジョブ。
うん。ばあちゃん、まだ 若いもの。(B ん一) (C うん) 大丈夫。

069C : マイニジ (B ンダー) コー シャベツテット (A ウン) ダイジョーブダ。
毎日 (B ×××) こう シャベっている (A うん) 大丈夫。

(A ウン)
(A うん)

070B : ndaッテ シルマ シャツパリ シャンベル イエデ ネーデバ。 {笑}
だって 昼間 さっぱり 話す 家で[は] ないじゃない。 {笑}

南三陸町 自由会話

イマ マサガ ドッカラモ ズンツァン カリデクルワケデネ {笑}
今 まさか どこからも じいさん[を] 借りてくる訳で[も]ない。 {笑}

071A : ズンズバ イラネガラ、 アド。
じいちゃんは いないから、あと。

072B : ウン、イラネ イラネ。 シトリノホカ° イ。 {笑}
うん、いない いない。一人の方が いい。 {笑}

073A : ズンズダデ マダ シナネーダラネー。 (B カド クマサキタ ンナ)
じいちゃんだって まだ 死なないならねえ。 (B ×× ×× ××)

ンーナ オメ、タイヘンダ。
そんな お前、大変だ。

074C : イマ ヒトリデ イルノ。
今 一人で いるの?

075B : ソー、ワゲ (A ホーライ アレー) ムスコド (C ム) オッカサン
そう、若い (A ほら あれ) 息子と (C ×) お母さん[と]

(A ムスコド) (C ムスコ) イルノ。 (A ソー)
(A 息子と) (C 息子) いるの。 (A うん)

076C : ジャー、ダイジョーブジャン。
じゃあ、大丈夫じゃん。

077A : サンニンダ。
三人だ。

078C : ダヨネー。
だよねえ。

079B : ソー、サンネンダ。タマヌ、オハナス カダリヌ
うん、三人だ。 たまに、お話し[を] 話しに

南三陸町 自由会話

ゴンザッテクダサイ。
いらっしゃってください。

080C : オレ。 {笑}
俺？ {笑}

081B : ウン。 {笑} サミスイ。
うん。 {笑} さみしい。

082A : ア ダンデモ イーノッシャ、ナンナネア。
あ 誰でも いいんです、なんならね。

083C : アー。アド アレダネ。ムガシノコトワ キキタイコト アルケドネ。
ああ。 あと あれだね。昔のことは 聞きたいこと あるけどね。

084B : ンダナー。
そうだねえ。

085C : シ シコトニ ナッテシマウケド。オチャノミバナシワ チョットナー。
× 仕事に なってしまうけど。お茶飲み話は ちょっとなあ。

086D : {笑} ゼヒ イマ オチャノミバナシグライノ ムカシバナシ、
{笑} ゼひ 今 お茶飲み話ぐらいの 昔話、

ゼヒ (C アー) キーテミテ クダサイヨ。 {笑}

ゼひ (C ああ) 聞いてみて くださいよ。 {笑}

087B : _____ クロバガリストナ。 (A ウン) {笑} Aチャン ナ、
_____ 苦労ばかりしてな。 (A うん) {笑} Aちゃん ね、

(A ウン) オシェライネ。 (A ウン) (C ウン)

(A うん) 教えられない。 (A うん) (C うん)

088A : クロースタ コドダガラ、オシェーロト。
苦労した ことだから、教えろと。

南三陸町 自由会話

089C : タンボノ (B ユーゴド) オ コドダノー、ウー、ホラ、ヤマ
田んぼの (B 言うこと) × こととか、 んー、ほら、山[で]

スミヤギ シタコトダノッテ アンデナイノ、 イッパイ。
炭焼き したこととかって あるんじゃないの、いっぱい。

090B : アンノッサ、イッペーナ。 (A ウン)
あるのさ、 いっぱいね。 (A うん)

091D : アー、スミヤキナシカ
ああ、炭焼きなんか

092B : コンド、ヤマサ スミヤギニ ツェデイカ^レレデ、 (D アー)
今度、 山に 炭焼きに 連れて行かれて、 (D アー)

キシヨイオシャ、ショワシェライデ、ヤマガラ。キー ヨシ
木背負いをさ、 背負わせられて、 山から。 木 ××

093C : ナニ ショッタッテ。
何[を] 背負ったって？

094A : キー。
木。

095B : キー、 キッタノ。 (C アー アー) スミ ヤグノッシャ。 (C アアー)
木[を] 切ったの。 (C ああ ああ) 炭[を] 焼くのさ。 (C ああ)

096A : スミノ キ。
炭の 木。

097B : ホイデ シェナガズ [11] ツツモノオ ショワシェライデ。
それで セナガズ っていうものを 背負わされて。

098C : ブ ブ ブナダノ。ナラダノ。ソイズ、 (B ンーン) (A ンー)
× × ブナとか。ナラとか？そういうやつ、 (B ううん) (A んー)

クヌキ°ダノ。

クヌギとか？

099A : クヌキ°、クヌキ°。

クヌギ、クヌギ。

100C : ンー、(B ホイズ) クヌキ°カ。コノヘンダト。

んー、(B それ) クヌギか。この辺だと。

101A : ンー、クヌキ°カ°、ウン。

んー、クヌギが、うん。

102B : ホイズ、ショワ ショッテサー、ドーロ オリ オッテクンダガラ。

それ、××× 背負ってさ、道路 ×× 降りてくるんだから。

ヤマンミズ。

山道。

103A : アノ ヤマガラダヨ。

あの 山からだよ。

104B : ンー、シデー ヤマオ。ショッタダガラ、オラ。ホンデ、イマ マダ コレ、

うん、大変な 山を。背負ったんだから、私。それで、今 また これ、

(C アー) ホーシテ ツメデイッカラ タイシタモンダ。

(C ああ) そうして // // // // // たいしたもんだ。

105C : ムガシノヒト スコ°インダヨー [12]、アルグ^ノ。(A ホラー) (B ンー)

昔の人 すごいんだよ、 歩く^の。(A ほら) (B うん)

ホンット スコ°イナー。

ほんと すごいなあ。

106A : デ アレ、コゴサ ヨメコ°ニ キテネー。オラ、ズッカデッシャ、

で あれ、ここに 嫁に 来てね。私、実家でき、

南三陸町 自由会話

ヤマモアルー、ナニモアル、トズ イッペ アッカラネー。
山もある、 何もある、 土地 いっぱい あるからね。

マイニズ オレノ オヤワ ス ヤッパリ スミヤギッシャ。
毎日 私の 親は × やっぱり 炭焼きさ。

ホンダガラ アノー、コナスタ キーカ°ネー、ゼンブ
それだから あの、 こんなような 木がね、 全部

タギモノツツーノ アッカラッシャ。ウ ワーギ、イエノ ワギ、スキ°、
焚き物っていうの あるからさ。 × 脇、 家の 脇、 スギ、

アッカラ、スキ° ッパ ガッコガラ ケッテクット、ソノ スキ° ッパコ
あるから、スギの葉 学校から 帰ってくると、その スギの葉

シロツテ、タギモノヌステ (C ウンウンウン)。タギズギツツーノネ、
拾って、焚き物にして (C うんうんうん)。焚き付けっていうのね、

(C ウン) クンドコシヨステ [13] ゴハン ヌンノ カナラズ
(C うん) かまど起こしして ご飯 煮るの[に] 必ず

ソイズデネグテ ワガンネガラ。ソーユーノワ シコ°ドダッタノッサ。
それでなくて[は] 駄目だから。 そういうのは 仕事だったのさ。

(D アー) ソーシテ コンド、ヨメコ°ヌ コゴサ キタツケ コンダ
(D ああ) そうして 今度、 嫁に ここへ 来たら 今度は

キー トリサインベドユー。サンミードギ、ジューイジカ°ズ
木[を] 取りに行こうという。寒いとき、 十一月

ジューヌカ°ズヌ。ソレー イズバン シンデガッタナ。
十二月に。 それ 一番 大変だったな。

(B ンダ、ンダサ) キートリー。

(B そう、そうさ) 木取り。

南三陸町 自由会話

107B : キートリ スタンダ。スキッパ トッテ タメデダノネ。(A ンン)
木取り したんだ。スギの葉 取って 貯めてたのね。(A うん)

(C ウン) (D ウン) ユー タグノニネ。(C ウーン)
(C うん) (D うん) 湯[を] 焚くのにね。(C うん)

108A : ショッテサー。デ、 ヤソーノ [14] ヤマノ イリコノ [15]
背負ってさ。 それで、弥惣の 山の 奥の

ホー (C ヤ) ガラネー。
方 (C や) からね。

109C : ヤソーマデ イッテキタ。
弥惣まで 行ってきた。

110A : ヤソーダヨー。(B ヤソー) ヤソーガラダヨー。(C ア)
弥惣だよ。(B 弥惣) 弥惣からだよ。(C ああ)

111B : ホイナノ ワシェライネーノネ。
そんなの 忘れられないのね。

112A : スット オイエノ オヤズワ ベゴ シッパッテイッテッシャ。
すると うちの 親父は 牛 引っ張って行ってさ、

ベコサ ソリ コシェデ。ガガー [16]、マンダ
牛に そり[を] 作って。 お母さん、 まだ

ヨンズッキロク[°]レーデ ホソコイガッタガラ。 {笑} ガガ ヨウエクテ
40キロぐらいで 細かったから。 {笑} お母さん 弱くて

ヌスア ソッテモ ナンダッテ、 キモ ナモ
「お前は 背負っても なんだ」って、「木も 何も

ショワシェライネガラッテ ベゴ シッパッテイッテア _____ {笑}
背負わせられないから」って 牛 引っ張っていった _____ {笑}

南三陸町 自由会話

キンマサ [17] ノシェデケデ モツテクッペツテ。(C アー ナルホド)
そりに 乗せてくれて 持って来ようって。(C ああ なるほど)

ホステ ヤマノ コンナ キューナドゴ ウス シッパツテイッテネア。
そして 山の こんな 急なところ 牛 引っ張って行ってね。

ハー オレ ソイツァ ヌレナンテ イワイダツテ オカナクテ オカナクテ。
はあ 私 それに 乗れなんて 言われたって 怖くて 怖くて。

サガ ナンジョニ ビューツト クルスサ。{笑} トマレバ ギグーツト
坂 どんなにか びゅーっと 来るしさ。{笑} 止まれば ぎくっと

ナルシシャー。ナンノ ブレーキモ アワイノ。アスデ コナゴド スタツテ
なるしさ。 何の ブレーキも _____ 足で こんなこと したって

ソレア ウスダモノ。{笑} シトツツモ。
それは 牛だもの。{笑} ひとつも。

113B : イマー イマワ チカイダゲツトモサ。(A ンー) ナンジョニ オメー、
今 今は 機械だけでもさ。(A うん) どうして お前、

アシノ ノロイ ベゴ テデツテダモノサ。(A ソーダヨー)
足の のろい 牛 連れて行ってたものさ。(A そうだよ)

(D ソーデスヨネー) ンー、ホツツァ イエデヌ シッパツタ
(D そうですよね) ンー、そいつは _____ 引っ張った

114C : ウマ イナガッタノ。ウマ。
馬 いなかったの?馬。

115B : ウマモ (A ウマ) ソノメーダ。
馬も (A 馬) その前だ。

116A : ズッカワ ウマ イッペー イダゲツトモ。(B ソノー アドワ) (C ハー)
実家は 馬 いっぱい いたけれども。(B その 後は) (C はあ)

南三陸町 自由会話

ウシダッタ) コゴワ ウシ。(B ウス ウシニ ナッタンダ)
牛だった) ここは 牛。(B ×× 牛に なったんだ)

(C ウシダッタンダネ) ウシダッタノ。

(C 牛だったんだね) 牛だったの。

117B : ウマ イネグナッテ。(A ウン)
馬 いなくなッテ。(A うん)

118C : ベゴダッタノネ。(A ウン)
牛だったのね。(A うん)

119B : ベゴ。シー。
牛。うん。

120A : ベゴァ イツゴドデ ベゴン ナッタ。
牛は いいとうことで 牛に なった。

121B : ウマッコデ コンダ アレ クサ カッタノ ホステネー。 ホシクサ。
馬で 今度 あれ 草 刈ったの 干してね。 干し草。

(C シー シー) ホイズ ツケデ ネ サッコンナッテサ ンマッコサ

(C うん うん) それ[を] つけて ね // // // // // 馬に

ノッテ イッタンダド、ヤマサ。

乗ッテ 行ッたんだよ、山に。

122A : ンダガッ ガッコー ケッテキテ、チューカ°グ サンネンニ ナッテネ。
だから 学校[から] 帰ッてきて、中学 三年に なッてね。

(B ウマサ ヌッテ) ウ ウマ イッピギ アンズゲライデッシャ。

(B 馬に 乗ッて) × 馬 一匹 預けられてさ。

ヨイ ヤシエピコナ ウマ、メ オレノ ウマ。アゲー、{笑}

// やせ細ッた 馬、× 私の 馬。赤い、{笑}

南三陸町 自由会話

アゲー ベッコイ [18] ウマッコ。ホイズデ コンダ アノー
赤い 小さい 馬。 それで 今度 あのー

サガノゲッテ [19] ホレア ハ ウダズチョーサ コエル、イマ リッパナ
坂の貝って ほら × 歌津町に 越える、今 立派な

ドーロ、コシェダゲットモ。アーノ ヤママデ イッテ。クサ カッテ
道路、 作ったけれども。 あの 山まで 行って。 草 刈って

ソイズサ ツケデ モッテクンダヨ。 (B ンダ) {驚いた声} [20]
それに つけて 持って来るんだよ。 (B そう) {驚いた声}

ムッツ ツケデ クンダヨ。 コノ クサ。マル。 [21]
六つ 付けて 来るんだよ。この 草。 東[で]。

123C : ヤマヤ [22] ノ ホーマデ イッタノネ。
山谷 の 方まで 行ったのね。

124A : ヤマヤダラダゲットモサ。 (B イシノデーラ) (C)
山谷あたりだけれどもさ。 (B 石ノ平) (C)

イシノデーラノ、キョセギノホー。 [23]
石ノ平の、 巨石の方。

125C : アー、ソッチノホーマデ イッタノ。
ああ、そっちの方まで 行ったの。

126A : キョセギノ ウエ。 (B サガノウエツツンダ) (C アー ス) ウエノ ヤマ。
巨石の 上。 (B 坂の上っていうんだ) (C ああ ×) 上の 山。

127C : サガノカ°イノ。
坂の貝の。

128A : ソー ソー ソー ソー。
そう そう そう そう。

129C : ホー。テッペンノ ホーマデ。
ほう。 てっぺんの 方まで？

130A : ソー。テッペンカ° カガッタ。(B ナンニ) スツカリ アチマデ。
そう。てっぺんが / / / /。(B なに) すつかり あっちまで。

(B) ホスト トジャーサ クット、ウマ

(B) そうする 途中で 来ると、馬

コンナヌ カランダ ユスルッカラッシャー。{笑} ソーノー シトズガ
こんなに 体 ゆするからさ。 {笑} その ひとつか

フタツツカ° ユルンデ クンダオン。アノ ロープガラ。(C アー)
ふたつが ゆるんで くるんだよ。あの ロープから。(C ああ)

ハー ホスタラバ コイツァ スカ° ッテ ブラサカ° ッテッシャー、
はあ そしたら これに すがって ぶら下がってさ、

(B ナオシテーナー) イーマンデ モッテコネゲネーガラ

(B 直したいな) 家まで 持ってこなきゃならないから

コレ タイフェンナ ゴドバリ イッソ アッタノ。(C アー)

これ 大変な ことばかり いつも あったの。(C ああ)

(B ワシェライネンダナー) ンダー ホンデ スツジュマデ イギダナンテ

(B 忘れられないんだなあ) だから それで 七十まで 生きたなんて

ホントニナー。{笑} (B オラ ホンダラ) イマ ホンニンカ°

本当になあ。{笑} (B 私 それなら) 今 本人が

ビックリ (B オラ) スルヨーダ。

びっくり (B 私) するようだ。

131B : シトーデ ビックリ ステンダ、(A ウーン) ハチジュヨンマデ

一人で びっくり してるんだ、(A うーん) 八十四まで

南三陸町 自由会話

イギデヤー。

生きてさ。

132A : ソーンダナー。 {笑} オレワ ハツマデ イギレッカ ナンカ
そうだなあ。 {笑} 私は 80まで 生きれるか なんか

ワガンネーゲットモサー。 (B アー イヤー)

わからないけれどもさ。 (B ああ いやあ)

宮城県本吉郡南三陸町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 話者

基本的にはA～Cの三名による会話であるが、一部調査者Dの発言が挿入されている。その他同席した調査者の笑い声などが聞こえる場合もあるが、それについてはいちいち表示しない。

〔2〕 シケデ

控えて。手を引く、手を携えるの意味。

〔3〕 ゴザッタカ

直前のBの伝統的な方言の言い回しを繰り返して口にただけで、談話自体には直接関係ない。

〔4〕 シテッテッチャ

実際の談話では二つ目の促音の長さが明らかに前のそれより短く、正しくは「シテッテチャ」のように聞こえる。しかし、当地域の「チャ」という形式は「テ」には後接しない。そうすると、この箇所は「シテッテシャ」（して行ってさ）のような発音が「シテッテチャ」のように聞こえた可能性もある。いずれか判断がつかなかったために、この箇所は本文のように文字化して訳を与えたが、なお検討の余地がある。

〔5〕 Y1

屋号。

〔6〕 Y2

地名。

〔7〕 タネサモ

「たねる」は尋ねる、探すの意味。

〔8〕 Y3

職業名。

〔9〕 ハイ、コレ バーチャンノ、ソソデ

ここでかんたんな食事をみんなに取り分けBさんに渡す声である。ソソデ（シオデ、牛尾菜）はユリ科の多年草で新芽や若芽をおひたし、和え物などにして食す。

〔10〕 アッチャー

直前の蠅を叩く音に反応した声で、談話自体には関係のない発話である。

〔11〕 シェナガズ

多くはわら製で重い物や固い物を背負うとき、背に当てる道具。背当て。

〔12〕 スコ[°]インダヨー

これは調査者に向かったの発言である。

〔13〕 クンドコショステ

クンドはかまどの意味。クンドオコシシテが訛った言い方で、火をおこすなどの意味と解される。

〔14〕 ヤソー

調査地と隣接する登米市の境界にある弥惣峠のこと。

〔15〕 イリコ

山や谷などの奥。

〔16〕 ガガ

ここではAさんの母親のこと。

〔17〕 キンマ

木馬。山から木材などを運搬するそりのこと。

〔18〕 ベッコイ

小さいの意味。

〔19〕 サガノカ[°]イ

入谷神平地区と歌津弘川地区を結ぶ坂の貝峠のこと。

〔20〕 驚いた声

同席している調査員の声である。

〔21〕 マル

木や草などを束ねたひとかたまりのこと。束。

〔22〕 ヤマヤ

調査地の北東にある桜葉沢（たらばさわ）のあたりを指す。

〔23〕 イシノデーラノ、キョセギ

調査地の北側にある神行堂山の登山口にほど近いところを石の平と呼んでおり、そこにある花崗岩の巨石は古くから信仰の対象となっていた。

宮城県南三陸町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
 黄 川川（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）
 福井 幸（東北大学文学部 3 年）

文字化担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）